

「心に残っている日本語の言葉」

カンボジア人

名前：チョンホー・チャリヤー

皆さん！「どこへ越しても住みにくい」という言葉を聞いたことがありますか。この言葉を知ったのは、私が2年前に熊本県にある短期大学に留学して、日本文学の授業を受けていたときでした。私は様々な日本の文学作品を学びました。今でも心に残っている作品は、夏目漱石の草枕です。「山道を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい。」という一節が、特に私の心に残っています。このあとに、「どこへ越しても住みにくい」という言葉が続くのですが、家族から離れて一人で生活する人たちは、この気持ちがよく分かると思います。

私は日本に留学したとき、勉強しながら日本の保育園でアルバイトもしていました。とても良い職場で、皆がとても優しくしてくれましたが、何だか寂しくてたまりませんでした。もともと私はおしゃべりをするのが大好きですが、話をしたい両親は近くにいない。日本人は忙しそうで話しかけづらいという毎日が続いたのです。私の寂しい思いは誰に伝えたらいいの？と、自分で自分に問いかけました。カンボジアで持っていた強い意思や夢がだんだん失われ、もうどうでもいい、帰国したいという気持ちで胸がいっぱいになりました。

ある日、失望しながら、小雨の中、保育園で子供の遊ぶ姿を見て、自分の国と家族が懐かしくて、できれば、子供のように、何も考えないで、生き生きとして遊べるのが一番いいなと思いました。雨と風がだんだん激しくなって、仕方がなく、かっぱを着て、アパートに帰ろうと思っていたとき、保育園の前に車が止まっているのが見えました。私のアパートの大家さんが私のために迎えに来てくれていたのです。言葉では言い表せないほど、嬉しくて涙が出てきました。大家さんは私のことを娘のように心配してくれて、私が寂しくならないように日本の観光地やお祭りなどに連れ

て行ってくれたのです。私の近くには私を気遣ってくれている人が沢山いる。一人ではないんだ。その日から、私はもう一度自分の意思を強く考え直しました。

現在のカンボジアの状況は、立派な人材がどうしても必要だ。私は落ち込んでばかりいられない。いつの日か、カンボジアも日本のように発展する国になるためには、今、何をすべきか考えよう。

その時から雨を見るといつも、日本の素敵な詩を思い出します。

「雨にも負けず 風にも負けず」という宮沢賢治の詩です。素敵な出会いがたくさんあったからこそ、日本が大好きになりました。熊本県の皆さんのおかげで、日本は私の第2の故郷だと思うようになりました。

最後に皆さんにどうしても伝えたいことは、私たちは国も国籍も生活、文化、考え方も違います。でも心は一緒です。「出会いは一瞬、出会えば一生」。この言葉を教えてくれたのは、いつも私を支えてくれた保育園の園長先生でした。「どこへ越しても住みにくい」のは、本当かもしれませんが、私は「どこへ越しても住みやすい」と考えるようになりました。それは、皆さんから優しさを与えてもらったおかげです。

最後に皆さんにどうしても伝えたいことは、私たちは国も国籍も生活、文化、考え方も違います。でも心は一緒です。「出会いは一瞬、出会えば一生」。この言葉を教えてくれたのは、いつも私を支えてくれた保育園の園長先生でした。「どこへ越しても住みにくい」のは、本当かもしれませんが、私は「どこへ越しても住みやすい」と考えるようになりました。それは、皆さんから優しさを与えてもらったおかげです

